



多摩市立瓜生小学校

瓜生小だより

令和4年度 第4号

令和4年 7月1日

主体的に課題を追究する学習をめざして

校長 水野 裕 司

6月24日に5年生が学校の水田で田植えをしました。この水田は、昨年草が生い茂った状態から、地域学校協働活動推進員をはじめ、おやじの会の皆様、地域の農家の方など、大変多くの皆さまにご協力いただき、復活させたものです。子どもたちは、靴下だけを履き、泥の感触を楽しみながら稲を植えていました。学校の中にある小さな水田ではありますが、子どもたちに、日本の「食」を支える稲作文化のほんの一端でも感じられる貴重な体験をさせることができました。一方、ロシアによるウクライナへの侵攻の影響で小麦が輸出できず、深刻な食糧不足が心配される厳しい世界状況の中で、食料生産の意味を改めて考える機会にもしていきたいと考えています。

さて先日、青少協主催のホタルを見る会に参加しました。よこやまの道を越えて、川崎市側に降りたところで見ることができました。山の方から目の前の水田に2～3頭ずつ（昆虫なので普通は「匹」で数えるのでよいのですが、学術的には「頭」で数えるそうです。）飛んできて、美しい光を発していました。時々、水田の水面に光が反射するなど幻想的な風景も見られました。学校から徒歩で30分もかからないところにこのような素敵な場所があることに感動してしまいました。その一方で、今の子どもたちが大人になった時、同じようにホタルを見ることのできる環境が残っているのか心配にもなりました。

多摩市は、2050年の大人づくりを掲げてESDに取り組んでいます。本校では、「環境」を柱に学習計画を立てています。1・2年生は生活科の中で、栽培活動や季節ごとの自然と触れ合う活動に取り組んでいます。3年生以上は、総合的な学習の時間で取り組みます。3・4年生は、瓜生緑地やよこやまの道など地域の自然に親しみ体感する活動を通して、自然のよさに気づき、自然を大切にしたいという意識をもたせます。5年生では、様々な環境問題に目を向け、社会全体に視点を広げていきます。6年生では、環境問題を解決する一つの糸口としてエネルギーに着目し学習を進めます。

また、学習を通して知識を得るだけでなく、「調査や活動をする技能」「課題を見付け、解決する力」「ものごとを多面的に見る力」「環境や社会に関心をもって、主体的に取り組む態度」といった児童の資質や能力も高めていきたいと考えています。そのために、教師が予め決めた内容や方法だけでなく、児童の関心や意欲を大切にし、教師と児童が相談し試行錯誤しながら探究活動を進めていきます。時には、大人から見ると回り道をしているように見えるときもありますが、粘り強く課題を追究し、解決する学習となるよう努めてまいります。保護者の皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

4年生は、よこやまの道で生き物探しをしました。
見つけたらタブレット端末で撮影し、共有しました。

